

スーパーグローバル大学創成支援事業 令和2年度中間評価結果

大学名	国際教養大学
整理番号	B11
構想名	日本発ワールドクラスリベラルアーツカレッジ構想

◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価

(総括評価)	
S	優れた取組状況であり、事業目的の達成が見込まれる。
(コメント)	
	<p>本構想は、日本におけるワールドクラスリベラルアーツカレッジの実現を目指しており、24時間リベラルアーツ教育の推進、世界標準カリキュラムの充実を軸に大学の世界展開力の強化を図ると同時に、グローバル人材を育成する事業として日本の英語教育改革の促進、国際的なベンチマーキングを目標に掲げた野心的な取組である。</p> <p>上記の目標達成に向け、MOOCsと反転授業の充実などによる具体的なカリキュラム改訂、学生たちによるテーマ別ハウスの内容の充実、イングリッシュ・ビレッジの展開などを通して、世界的レベルのリベラルアーツカレッジに相応しい教育内容の実現及び日本人学生と留学生の共生社会の創成という点で成果が見られる取組になっている。既に、当初設定した最終目標に達している項目もあり、その他の目標についてもほぼ確実に実現可能なところまで来ていると言える。また、財政支援期間終了後を見据えた自走化についても十分考慮されていることが伺える。</p> <p>一方で、イングリッシュ・ビレッジを構築し、全国の中高生が参加していることは素晴らしいが、日本の英語教育への波及効果という観点から、その成果を全国にどのように広げていけばよいかについて更に検討していただきたい。また、国際ベンチマーキングについて、確かに日本人学生の伸びが見られるが、その結果が実際の国際社会でどこまで通じるのか、という点についても更に検証することが求められる。</p> <p>大学の特性やこれまでの実績を活かし、計画した構想を着実に進めている点は高く評価できる。国を超えたグローバルな視点からのリベラルアーツ教育システムの構築の大切さという点から、引き続き他大学のモデルとなることを期待する。</p>